

進化と継承

福井県議会議員

笹原修之 NEWS

みなさまの声を
県政に届けます



日頃より、福井県政の発展に向けた活動にご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

さて、7月の豪雨では、あわら市内におきまして住宅24件、小屋等32件で土砂流入や浸水被害が報告されました。また、農林業分野の法面崩壊等が113件、土木施設分野の護岸や法面崩壊等が36件、下水道施設で2件の被害が発生しました。特に、指中区・細呂木区の観音川流域では、住宅への床上・床下浸や自家用車の水没等も確認されました。今回の豪雨災害では、1時間当たり40ミリを超える大雨と、高潮による北潟湖水位の上昇が重なり、観音川の水位が上昇し越水したということです。また、波松地区では県道が陥没し一時通行止め、富津地区ではさつまいも畑や農道が陥没し、さらには住宅への土砂流入などもあり、市民の生活に大きな被害が出ました。

私からも県土木部に対して早急に対策を講じるよう依頼し、10月度臨時議会におきまして観音川河口の浚渫・堤防嵩上げの補正予算を組んで頂きました。国の災害復旧事業にも申請を行っておりますので、一日も早い復旧に尽力してまいります。



様々なご要望に対する活動紹介 (抜粋)

区長

日本女子オープンゴルフ選手権に向け、松くい虫被害による枯れ松を伐採して欲しい。



北浦市議や行政、関係機関と協議し、松くい虫による枯れ松を伐採しました。

市民

嶺北縦貫道路の千束～山十楽間の道路の衝撃を緩和して欲しい。



三国土木事務所と協議し、道路斜面の角度を緩和しました。

区長

赤尾区内の交通安全の為、制限速度を下げたい。



警察と協議し、時速50kmから40kmに変更し、横断歩道も見やすくなりました。

市民

河原井手踏切の冬期通行止めの期間を変更して欲しい。



警察と協議し、地域利用者の要望に沿った期間に変更しました。

北陸新幹線福井・敦賀開業まであと半年を切りました。これからは関東・東北方面の約3,000万人の市場をターゲットに、地域の歴史・文化を生かした観光政策がさらに重要になってまいります。そこで、今回は「人口減少時代における観光政策」、特にインバウンド（訪日観光客）やコンベンションビューロー（大会誘致）について予算決算特別委員会で質疑いたしました。

Q. 来年3月16日、念願の北陸新幹線が福井開業しますが、人口減少社会と言われる日本の人口動態は放物線のように減少すると予測されています。福井県の人口はこの1年間で約9,000人減少しており、日本人1人当たりの年間消費額は約130万円と言われるので、福井県のこの1年間の人口減少を消費額に換算すると、9,000人×130万円で実に100億円超の年間消費額が減少したということになります。北陸新幹線開業による福井県の経済効果は約309億円と言われるので、この経済効果は3年で消えてしまいます。このような現状の解決策の一つは、海外からのインバウンド、特に富裕層のインバウンドの誘客であります。しかし、福井県の本年6月の受入れ状況は3,692人泊で全国47位、お隣の石川県は7万3,660人泊の受入れで福井県のおよそ20倍です。全国最下位脱出に向けて県は、昨年10月に「Zen, Alive, Fukui」という観光イベントをフランスのパリで開催し、また本年は台湾やベトナムでの商談会や体験型コンテンツづくり、さらには近隣県からの誘客強化など取り組んでおられますが、**コロナ前も現在もインバウンド客の受入れ状況が全国ワーストクラスの現実をどのように分析し、今後どう展開していくつもりでいらっしゃるのか、知事の所見をお伺いします。**

A 知事

ご指摘のとおり、本当にインバウンドが増えなくて、全国ワーストクラスというような状況になっていると認識をしています。これを何とかしていかなければなりません。一つには、やはり北陸新幹線というのは非常に大きな効果があるだろうと思います。特に、外国人向けの「JAPAN RAIL PASS」は新幹線乗り放題で、のぞみ・かがやきには乗れないが、ひかり・はくたか・つるぎには、指定席でもグリーン車でも、自由に乗り降りができるということで、新幹線の効果はインバウンドにも非常に大きな効果があると認識をしています。北陸新幹線が金沢まで開業した時から3年で富山、石川のインバウンドも2倍に増えています。福井県でもリピーターの多い台湾や香港をターゲットにしながら、東アジアを中心に力を入れ、インバウンド対策をさせていただいております。例えば台湾であれば、そこにレップ（現地の観光誘客拠点）を置いて、商品の造成をしています。また、タイ・ベトナム・フィリピンなどは旅行博に出ていって、そこで旅行商品に結びつけ、刺さるような情報発信をさせていただいております。また、富裕層への訴えというのは非常に重要であり、特にフランスの富裕層向けには、ZEN（禅）などをフックにしながら、インバウンドを拡大していきたいと考えております。



笹原的まとめ

全国宣伝販売促進会議やプレDCなどを活用して、インバウンドの誘客につなげていただきたいと思います。

Q. 観光庁は、訪日旅行における消費単価が高い傾向にある「高付加価値旅行者」の地方への誘客に向けて、集中的な支援等を行う「モデル観光地11地域」というものを選定しました。大自然が残る東北北海道エリアや瀬戸内エリア、沖縄奄美エリアなどが選ばれていますが、その中には北陸エリアも選定されております。そこで、**地方における高付加価値なインバウンド観光地づくりのモデル観光地として、福井県の対応や進捗はどうなっているのか、県の所見をお伺いします。**

A 交流文化部長

今回の事業は、1回の旅行消費額が100万円を超えるような外国人観光客の地方誘客を促進するため、地域の滞在価値の向上、宿泊施設の整備、人材育成など、様々な観点で今後国が4～5年をかけて支援するものです。現在、北陸三県の担当者、観光庁および観光庁が選定した専門家によるチームで毎週打合せを行っており、地域の潜在価値であるとか、ターゲット等を明確にしたマスタープランの策定に向け、課題あるいは対応について確認をしています。今後、各県が持つ外国人富裕層に選ばれるコンテンツ、あるいは地域が誇れるストーリーなどの調査をさらに詳しく行って、今年度中にマスタープランを策定する予定です。



笹原的まとめ

北陸三県で力を合わせて、インバウンド誘客の効果を最大限に発揮していただけるようお願いいたします。

Q. 近年は円安によって非常に多くのインバウンドが訪れております。京都市では、1日700円で乗り放題できる市バスのチケットが大変人気ですが、余りの観光客の多さでバスに乗れない、降りられないといった市民から苦情が出るほどのオーバーツーリズム（観光公害）になっており、混雑解消を目的に9月末で乗り放題チケットは販売中止に至りました。今後は、インバウンドは「量」よりも消費額という「質」を求める流れになってきています。そこで、**県はどのレベルの富裕層インバウンドをターゲットに置いていくか、また、どのような戦略を持って確実なインバウンド誘客を図っていくのか、中村副知事の所見をお伺いします。**

A 中村副知事

1回当たりの消費額が100万円以上というような海外富裕層は、満足度を求めており、余りお金に気を遣わないと考えます。ただ、こういう方々というのは世界中を飛び回って、彼らの感性に合うものを求めていくわけでありまして、我々の産物なり商品が、彼らの目にその価値を見つけてもらえるか、我々がそこに訴求できるかということが非常に大きな鍵になると思います。禅という精神文化に体験を加えるとか、800年、1500年という伝統工芸の歴史にアート性を入れるとか。それから食では、越前ガニ「極み」とか「いちほまれ」などもあります。しかし、これはあくまでも素材であって、それをどう料理に持っていくのかというようなところも鍵になります。そして、我々がそういうことをちゃんと分かるようにならなくちゃいけないのだらうと思っています。最近では、「オーベルジュ」や「ミシュラン」、それから「アーティスト・イン・レジデンス」といった言葉が普通に会話の中で出てくるようになってきています。つまり、そういうことをやる事業者が福井県の中にだんだん増えてきているのだらうと思います。さらには一流シェフが来るような施策も今進めております。誘客については、フランスでの試みや、アメリカでレップ（営業代理店）を作り、そこから富裕層向けの旅行商品の造成で呼び込みを図っていきたくて考えております。



笹原的まとめ

本物と言われるものが最終的には満足度を高めることにつながっていくと思いますので、それらの磨き上げも引き続きお願いします。

Q. 県では、持続可能な観光地の稼ぐ力を高める施策等を促進していますが、全国的に見てもインバウンドの集客が弱い福井ですので、都市部からの流入を待つのではなく、具体的な施策が必要です。京都、金沢の大都市間にある福井というようなつなぎで終わることのないように、長期滞在につながるような方策の一つとして、滞在目的の強い「MICE(マイス)」の誘致を強く推進してみたいかと思いますが、MICEとは、(M) ミーティング・(I) インセンティブトラベル・(C) コンベンション・(E) エキシビジョン/イベントの英語の頭文字を並べたもので、企業の会議や研修旅行、国際機関、団体、学会が行う国際会議、また展示会、見本市、イベントといった多くの集客、交流による経済波及効果が見込まれるビジネスイベントを指します。令和5年3月に閣議決定された新たな観光立国推進基本計画では、MICEについて2025年までにアジアNo.1の国際会議開催国になることを目標としています。また、本年5月には新時代のインバウンド拡大アクションプランの中で、MICEについて2030年までにアジアNo.1、世界5位以内を目指す目標が掲げられています。

このMICEは、グローバル企業の共同研究や産業振興を推進する平日型の誘客であり、休日型の一般観光よりも交流人口の平準化が期待できます。また、会議の開催、宿泊、飲食、観光など経済消費活動の裾野が広く、滞在期間が比較的に長いと言われており、一般的な観光客以上に周辺地域への高い経済効果を生み出すことが期待されます。東京都をはじめとする国内12都市のグローバルMICE都市以外にも、富山県、岐阜県など、福井県の近隣においてもコンベンションビューローの機能強化を図っており、確実なインバウンドの誘客に名乗りをあげています。そこで、他の地方都市との競争力が向上するため、県としてもMICEを誘致するコンベンションビューローが必要だと思われ

Q. 助成金に関しては、困るぐらい問合せが来ていると観光連盟さんからお聞きしています。具体的にはホームページにも載っていますが、国内最大級のコンベンション助成金ということで、視察の問合せもたくさん入っているということですが、ここに一つ大きな課題があります。大型のコンベンションを誘致するに当たって、宿泊業および飲食業等ではコロナからの復帰がまだできていないということです。コロナで職場を離れた人が十分に戻っていない人手不足や、宿泊施設では福井県に登録されている受入客数の数字にまだ戻っていません。また、福井県観光のトップシーズンは初夏の5月や夏休みの8月という時期であり、この時期の週末は、東尋坊、恐竜博物館、海水浴客、アウトドアキャンプなど、県内の宿泊施設は観光客でいっぱい、大型のコンベンションを受け入れる余裕が実はありません。

さらに、大型のコンベンションで困るのがお昼時です。一気に昼食に出た時に、昼食客をさばききれない、また、会場内でのケータリングに関しましても、配膳のアルバイトスタッフがまだ戻りきっておらず、対応しきれないというのが実情であります。そこで、アフターコロナの現在、国際会議の誘致に限らず、観光客等を受け入れる体制が十分でない状況が見受けられるが、その点について県の所見をお伺いします。



**地元企業の受入れ体制の立て直しにも
しっかりと目を配っていただきたいと思ひます。**

Q. 福井県の受入れのキャパシティも考えると、やっぱり「量」より「質」を高める必要があると思ひます。そして、観光客の満足度を高めることが大変重要であり、人に勧めたくなる観光地を目指すということも必要となります。その為には、エリアごとに分かれたリアルタイムの実態調査のマーケティングが非常に大事になってきます。この実態調査は、県観光連盟が国の補助事業で実証実験を行っており、エリアPMS(プロパティ・マネジメント・システム)という宿泊管理システムを導入して、ターゲットやタイミングのデータを集積し、宿泊実態を把握する事業であり、これを活用することで繁忙期や予約状況がつかめ、価格調整や仕入れ調整、スタッフの手配調整ができます。また、観光消費額の平均金額や宿泊施設の平均稼働率をつかむこともできるので、自社が他社と比べて今どんな状況であるかということが分かり、自社の稼ぐ力を高め、観光客の動向を確実につかむことができるというものです。しかし、こういった実態調査は単発では意味がなく、続けてこそ意味があるものであり、年度ごとの変化を見るためにも、継続的なデータ集積が必要となってきます。そこで、具体的な観光政策には専門的なマーケティングが必要であり、そこに十分な予算を当てること



**企業経営と同じく、継続は力であります。しっかりと予算を
当てていただいて、コロナからの完全復活を遂げていただきたいと思ひます。**

A 交流文化部長

本県のコンベンションビューローは、従来、福井市を中心にMICE誘致に取り組んできましたが、令和2年4月に福井県観光連盟が事業の譲渡を受けて、海外赴任経験のある旅行社社員を職員に招き、2名増員するなど体制も強化して、MICE誘致の営業を行っております。

具体的には、大学教授や国際団体等への営業活動を年間410件やっているほか、コロナ後の海外交流の再開を見据えて、昨年度観光連盟として初めてシンガポールやロンドンなど、海外での商談会にも参加しました。本県の魅力発信と、国内トップレベルの助成制度のPRを行って、国際会議等の誘致に努めております。こうした活動の結果、今年度の開催予定件数は78件と、昨年度の44件から大幅に増えており、9月補正予算でもお認めいただいた大規模コンベンション助成の最大100万円の加算、これもまた積極的にPRしながら誘致拡大へ向け、主催者のニーズに丁寧に対応していきたいと考えております。

A 交流文化部長

ご指摘のとおり、宿泊事業者からは特に客室係、清掃スタッフなどの不足に対し、アルバイトや短期派遣、外国人労働者の募集などにより、何とかやりくりしていますが、現場の負担も大きいと伺っております。人手不足の要因の一つとして、季節ごとの観光客の入込みの偏りによる雇用の不安定さというものがあります。特に冬の入込みが弱いため、教育旅行やコンベンションの誘致等により、閑散期対策を強化するとともに、北陸三県合同で冬の北陸旅キャンペーンを展開するなど、年間を通して観光需要を平準化していきたいと考えております。



A 交流文化部長

ご指摘のとおり、県は令和3年度からアンケート調査を進めて、観光客の属性や満足度、あるいは消費額、自由意見など約3万件のデータを蓄積し分析をして、県観光連盟ホームページにおいて公開をしており、各市町、あるいは観光事業者からも好評をいただいております。さらに、9月からはオープンデータとしており、あわら温泉エリアの宿泊予約状況であるとか、恐竜博物館の予約状況についてもグラフ化し、見やすくして公開しています。これらは周辺飲食店等の来店予測であるとか、渋滞予測などへの新しい活用も可能になってくると考えております。

今後、新幹線開業で来県する多くの観光客の動向を追いかけ、効果的なマーケティングを行うためにも、引き続きシステムの高度化が必要だと考えており、より良いものになるよう、来年度予算への反映も含めてしっかりと検討していきます。

普段どういう活動をしているの？

笹原修之の活動報告

【2023.7▶9】抜粋

詳細は
facebookを
ご覧ください。



7月 県民スポーツ祭総合開会式



7月 音楽のつどい in 本荘



7月 吉崎湖畔のタペ夏祭り



7月 竹田川改修促進協議会総会



7月 坂井地区農業農村整備事業推進協議会総会



7月 福井県・道づくり大会



7月 北陸新幹線芦原温泉駅建設促進同盟会総会



8月 令和5年度 福井県福井バイパス道路建設促進協議会委員会



8月 敦賀・美浜原子力発電所を視察



8月 吉崎湖畔のSUP体験会



8月 嶺北消防組合消防総会訓練



8月 あわら温泉開湯140周年開会式



8月 あわらカップカヌーポロ大会



8月 福井県戦没者追悼式



8月 農業研修会で小松菜ハウス栽培を視察



9月 恐竜で高付加価値化したホテルを視察



9月 日本スポーツマスターズ福井大会開会式



9月 芦原温泉駅東西自由通路開通式



9月 あわら新幹線歓迎会「新・歓」



9月 日本女子オープンゴルフ選手権を視察

土木警察常任委員会

今年度、土木警察常任委員会の副委員長を拝命いたしました。



建設人材育成優良企業を視察



石川県警と特殊詐欺について意見交換



カーボンニュートラルレポート新潟港を視察



福井県建設業協会青年委員会と意見交換

県政についてのご意見・ご要望をお聞かせください!!

明るい未来を目指して。福井新・時代

福井県議会議員 笹原修之

笹原修之 検索

【事務所】〒919-0632 福井県あわら市春宮三丁目19-15 (ハロープリント内)

TEL 0776-73-4513 / FAX 0776-73-1036 E-mail:sasahara@helloprint.co.jp

日々の活動を随時更新中!

facebook

ホームページ

